



2025年

11月

中国四国農政局
徳島県拠点

「スマート農業技術活用促進法」に基づく生産方式 革新実施計画が徳島県内で2件認定されました！！

作業を効率的に実施する直進アシスト機能(トラクター)の導入と、ほ場の枕地確保により効果を高め、労働生産性を向上（中野雄一郎氏）

徳島市国府町の中野雄一郎さん（29歳）は、令和4年に帰郷し、祖父が残してくれた農地と農業倉庫があったこと。さらに、国や県に支援事業があることを自身で調べ26歳で新規就農を決意しました。

栽培技術は、先輩農家やJAに相談しながら習得、まずは一人でも栽培できるブロッコリーを中心に、カリフラワー、サニーレタスなど品目を増やし、年間を通じて収穫できる体制を整えました。就農から3年が経過し、一人での作業は労働負担が大きく、経営規模の拡大が難しいと考え、トラクターに直進アシスト機能を導入するとともに、ほ場の枕地でトラクターの旋回場所を確保することで、作業効率を向上させ労働生産性の改善に取り組みしました。

「農業未経験のため、うね立ての作業に時間と労力を要していた。直進アシスト機能を導入し



マルチで覆う作業
直進アシスト機能があると、
後ろを見ながらの作業も楽です。

（写真提供 中野さん）



直進アシスト機能でうね
立てした畑、手前は旋回
のための枕地

た結果、直進精度が高く、無駄な作業が減り作業効率が向上、長時間の作業でも疲れにくくなった」と中野さんは話す一方で、「計画書作成では、ほ場ごとに枕地を除く面積での収益を計算することに苦労した」と振り返ります。「スマート農業技術の導入は経験ゼロからの農業参入者にとってハードルを下げ、早期に作業を軌道に乗せられる。しかし、機械は高額で、個人経営者でも導入しやすい支援をお願いしたい」と話されました。

労働生産性を向上する直進アシストの導入と、作期分散を通じた機械稼働面積の拡大で、収益性の向上（（有）榎山農園）

小松島市坂野町の（有）榎山農園は、110ヘクタールの水田を9名で管理しています。この規模を少人数で管理するためには、スマート農業技術を導入し、生産方式革新実施計画の認定を受けました。

認定による優遇措置を活用し、さらなる効率化と規模拡大を進めています。

スマート農業技術と農地の大区画化は密接に関係しており、農地の集約・整備を通じて効果を最大限に引き出しています。

特に、直進アシスト走行技術は、労力軽減に大きく貢献しており初心者でも操作可能な点が魅力です。同社は、スマート技術の積極的な導入を通じ、持続可能な農業経営の実現を目指しています。

堀江取締役は、「近年、気候変動の影響もあって、作物の栽培方法が変化しつつある。



榎山代表取締役（右）と堀江取締役（左）



直進アシスト機能（田植え機）写真提供（有）榎山農園

スマート技術の導入にあたっては、栽培する作物、土地の状況や地域の環境を十分考慮し、計画を立てた上で、適切な技術の導入を選択すべきである」と話されました。さらに、榎山代表取締役は、「水稻では、離農する農家からの農地の引受けが多く、急激な耕作面積の拡大に伴う労働力確保が課題となっている。そのため、作期の異なる品種の導入やスマート農機の稼働率向上により、水稻栽培の省力化、規模拡大を図りたい」と熱い思いを語られました。

令和6年6月14日に農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用に関する法律（スマート農業技術活用促進法）が成立し、6月21日に公布され、10月1日に施行されました。

この法律は、農業者の減少等の農業を取り巻く環境の変化に対応して、農業の生産性の向上を図るため、「スマート農業技術の活用及びこれと併せて行う農産物の新たな生産の方式の導入に関する計画（生産方式革新実施計画）」と「スマート農業技術等の開発及びその成果の普及に関する計画（開発供給実施計画）」の2つの認定制度を設けるものであり、認定を受けた農業者や事業者は金融等の支援措置を受けることができます。